

チャレンジ精神溢れる ヘルメットデザイン

ARAI'S HELMET DESIGN

先日行われたサッカーのワールドカップでは、「日本人は世界に通用しない。」とか、「なぜ、世界に飛び出して挑戦しようとしないうか。」など、したり顔で話す評論家もいましたが、バイクの世界では日本人も力強いものです。数多くのライダーが世界を舞台に活躍しています。中でも、アライを使用する原田哲也、坂田和人、芳賀紀行の3選手は、立派なもの。それぞれのクラスで勝利を重ね、文字どおり、世界のレー

ス界をリードしています。今回は、そんな3人の選手が使うヘルメットのデザインについて、お話ししましょう。アライでは、どんなライダーのヘルメットでも、帽体や、緩衝材など、安全性に関わる部分は市販品をそのまま使用し、スペシャルは一切作りません。命の尊さに関わりはないのだから、当然のことです。ただし、デザインは別。ヘルメットは、それぞれの選手が、好みや性格を個性豊かに表現する

場でもあるからです。原田、坂田、芳賀選手らのデザインも、それぞれの選手がアライのスタッフと打ち合わせを繰り返しながら、まとめ上げたものです。選手自身がアライの制作現場に何度も足を運び、コンピュータ画面や試作の現物を見ながら長時間話し込んだり、時には、レース場にコンピュータを持ち込んだスタッフと、レースの合間を縫って打ち合わせをしたような事もありました。

原田 選手は、ヘルメットの後頭部にも入る彼のトレードマークでもある、ディアブロをより力強く変身させ、彼自身が超人ライダーともなるイメージをヘルメット全体に表現して欲しいとの事で、矢の姿にも見える光り輝く目のイメージに特にこだわりを持っていました。勝つために選んだイタリアのアプリリアに乗る国際的な雰囲気も、前頭部にあるハラタのイメージロゴの中に生きています。



坂田 選手は、自らのチャレンジ精神をユニークにあらわした爆弾小僧をより強調し、爆弾マークの左右にガソリンの漏れたフューエルキャップを配し、より危険なイメージに仕上げました。そして、後頭部でメカニカルな面を表現するサカタワールドも、地上のサカタワールドから、宇宙のサカタワールドへと進化させ、常に先行くイメージを強く強調しています。

芳賀 選手は、今まで使っていた何種類かのデザインを世界へチャレンジするにあたり統一したいとのことで、一番繰起のいい8時間耐久で優勝した時のファイアーハーターをベースとして、前行くライダーに脱みを利かせるようあえてシンプルにしなから、より以上に目立つ迫力あるデザインへと進化させました。世界の強豪を撃破するためのスティンガーミサイルのイラストが、後頭部で深みを効かせています。



このように、世界で活躍する3選手のデザインに共通するのは、誰にも負けないという強い意思と、世界で勝負をかけるたくましいチャレンジ精神が溢れていることです。

この力強さ、たくましさは、他分野のスポーツ選手にも見習って欲しいものです。

もちろん、アライも、頂点を目指して世界のレース界に飛び出した20数年前の初心を忘れず、チャレンジを続けていくつもりです。